

# 地域ととものに



## 子どもの笑顔と歓声広がる角間の里

昔話や数え歌、子どもに話したことはありますか？

### 失われつつある口承文芸

地元に残る話を保存し後世へ

地域の専門家がプロジェクトを後押し

### 里山に知恵を呼び込む民間人

民学連携で新学問の体系化も

地域貢献の中核事業を追う

### 大学と地域の結びつきを強める

地域活性化プロジェクト

北陸ライフケアクラスター研究会とは？

### 産学官スクラムで強力ブランドを創出

イタリア現地レポート①

### 大学が手がける国際貢献

教会壁画修復の現場を歩く

イタリア現地レポート②

### フィレンツェ大学の社会貢献

文部科学副大臣 馳浩 × 金沢大学長 林勇二郎

対談「地域にとつて

金沢大学とは」

手をつなげば、  
きこえつまくらぐ。

大学の「知」と地域の「活力」  
連携から広がる無限の可能性  
皆さんと一緒に、この街を、そして住む人を元気にしていきたい

地域とともに  
金沢大学社会貢献室

私たちは、金沢大学の社会貢献活動を応援しています!!

朝日新聞

北陸銀行

MEIDEN

明和工業株式会社

株式会社アクトリー

都市と大学 学都 北陸の観光 彩都  
季刊情報誌 文化情報誌  
都市環境マネジメント研究所

i2 アイ・ツー  
www.i2-jp.com

コミュニケーションの未来に向かって  
熊登印刷株式会社

## ■対談

# 地域にとって 金沢大学とは

創立五十周年記念館「角間の里」に各界の著名人を招いて、林勇二郎学長が対談する企画は2回目となり、今回は石川の選良である馳浩代議士にお願いした。馳氏は先の第3次小泉改造内閣で文部科学副大臣に就任し大学の有り様を政策レベルで考え、また、日ごろから地域の視点でも金沢大学を見つめている。対談のテーマは「地域にとって金沢大学とは」。大学の改革や社会貢献について、双方が忌憚のない意見を交わした。

学生編集委員 水越直哉



金沢大学長  
林  
勇  
二  
郎

文部科学副大臣  
馳  
浩



## 大学は地域の知恵袋 専門家集団が課題を解決

**林**／この度は文部科学副大臣のご就任おめでとうございます。馳さんは富山県小矢部市のお生まれで、小学生のころから金沢に在住とお聞きしました。金沢に住んでおられて、金沢大学との何かご縁はありますか。

**馳**／同級生はたくさん学んでおりますけれども私自身の縁はな

かったですね。私も星稜高校在学時に金沢大学へ行くか東京の大学かと選択のときがあったのですが、当時レスリングやっていたので東京の大学に行こうと考えました。ですから10歳代や20歳代のころは関わりはなかったように思います。むしろ国会議員になつてから金沢大学によく行き来するようになりました。発達障害者支援法（平成17年4月施行）という法律をつくることき、教育学部の先生に、どう

いった法案の中身にしたらいいのとか、法律ができた後の現場への行政の対応の仕方とかをご指導いただきました。選挙区にこういうシンクタンク（頭脳集団）のような大学が存在して、それぞれの分野の専門家がおられるということはいろいろな意味で非常に助かります。ところで林さん、この建物は以前から気にはなっていたのですが……。

**林**／この建物は去年4月、白山麓の旧白峰村にあった築280年の古民家を大学の創立五十年記念館として移築したもので、「角間の里」と呼んでいます。学生の授業や研究のほかに、市民ボランティアの里山メイトが大学キャンパスにある里山で竹林の整備や棚田を復元したり、子どもたちが自然観察会などを行ったりする活動拠点になっていきます。1月に「雪だるままつり」を催したのですが、8千人余りの市民の皆さんがここを訪れてくれました。金沢大学と地域の交流の場になればと思っています。

## 3つの学域に再編・統合 大胆改革で教員任期制も

**馳**／この場所にいると何か気持ちや和らぎますね。こういう古民家を残しておくだけでも教育的な価値がある。留学生に

日本文化を紹介する場所として使ってもいいですね。ところで、金沢大学は平成20年度（2008年度）から、現在の8学域を3つの学域に再編・統合する計画を打ち出されています。どのような狙いがあるのですか。

**林**／これまでの8つの学域を、人間社会、理工および医薬保健の3つの学域と16の学類に再編します。学部の壁を取り払うことで、基本を残しながらも新しい専門領域を取り込んだ教育組織とする。教員は自分の専門に合わせて授業をするのではなく、社会が必要としている人材を育てるための教育を学生に提供する。グロ

ーバル化が進む今日、国際社会、地域社会、そして産業界が求める人材は多様であるし、そういう時代の要求に 대응することで知の拠点としての役割を果たしていきたいと思っています。

**馳**／文部科学省の副大臣の立場から言いますと、運営費交付金が減っていく状況ですが、特色ある教育研究をやっていたきたい。そして、国立大学の場合には小手先ではなく、スクラップ・アンド・ビルド（組織の改廃と新設）の大胆な改革になるようお願いしたいと思います。学部の再編・統合に関連してですが、教員の任期制というものを取り入



馳 浩（はせ・ひろし）  
昭和36年、小矢部市生まれ。専修大学文学部卒。星稜高校時代にレスリングを始め、昭和59年ロサンゼルス五輪グレコローマン90kg級に出場、母校の高校教師を経てプロレスラーに。平成7年参院議員に初当選、平成12年から衆院議員。平成17年11月の第3次小泉改造内閣で文部科学副大臣。



対談前に、馳氏を「角間の里」の2階に案内。天井の広さや梁の太さなど、昔ながらの家屋構造について話が弾んだ



れて若手を採用していくという制度はあるのですか。

林／任期制を入れて流動性を高めるといいますが、がん研究所、医学部の保健学科、そして自然科学研究科の一部ですでに実施しています。21世紀COEプログラムなどでは任期つきの教員を学長裁量で雇用し、プロジェクト終了後にテニユア（終身雇用）とすることを既に始めています。

### 拠点大学としての役割担い若手人材を積極的に育成

馳／国立大学が法人化して、学生の卒業後まで面倒を見る私学のような小回りが利いた体制や、教授会も学長の方針に協力して一丸となって大学経営を進めるといった体制になってほしいと期待が集まっていると思うのですが、いかがでしょうか。

林／おっしゃるとおり。金沢大学にそのように期待する向きが

あることを感じていますし、喜んでおります。が、本学は公的な教育と研究の責務を果たしながらも、法人としての経営を進めなければならぬ。地域に向けての学校教員や医師などを養成し、輩出した人材のケアもしていく。と同時に、知財を技術移転するなどの産学連携の一方で、今すぐ間に合わないかもしれない基礎研究も進めなければならぬ。それが公的な国立大学の社会的使命だと思えます。また、学長がリーダーシップをどれくらい執るかという

ことですが、私は五分五分と考えています。大学という教学の組織は、ほかの経営的な企業と違って、学問という多様性の場に存続しており、それらは自由であることが前提です。経営的なりリーダーシップで学長から下ろすだけでは意味がないし、そうしただけでは動かない。

馳／金沢大学が北陸のエリアにお

いての、あるいは日本海側の拠点大学としての役割を担ってほしいと期待しています。そして、人材も若手の人材をどんどん育ててほしいと思います。

林／その点で言えば、ご期待に沿えるよう努力いたします。幸いにも地方公務員の採用試験では金沢大学が国立大学の中では全国ナンバーワンです。合格者数でいくと今年も180人。それが3年間続いています。学生が非常に前向きといえますか、一生懸命やっています。

馳／小泉構造改革の官から民へという流れがあるなかで、公務員として採用された方々の意識をより民間に近づけて、効率的な行政運営と、もう一つは独創的な行政運営に携わっていく人材を輩出する大学になってほしいですね。

### 各大学がカラーを出し合い生まれるアイデアと活力

林／少子化の流れのなかで、石川県内の19の大学がコンソーシアム（共同事業体）を組んで、地域の魅力を情報発信してい



林／どうぞよろしくお願いいたします。きょうはお忙しいなか、ありがとうございます。

馳／それは非常にいいことだと思います。石川学とか日本海学とか、この地域の特徴を生かした学問を連携してやるのもいい。これは政治家らしい発想としかられるかもしれませんが、やはり人材の交流ですね。それぞれの大学から目の色変えてやる意欲のある人を集める。19の高等教育機関が学生のレベルを高めて社会貢献をしようという意識を持つて本気になってくれれば相応なことができます。それぞれの大学のカラーを持った人材が化学反応を起こして、素晴らしいアイデアや活力が生み出されるのではないかと期待しています。私も極力お手伝いしたいと思います。

#### 取材後記

この後、対談は思わぬ展開となった。こたつに入ってミカンを食べながらの和やかな雰囲気を手伝ったのか、話題は次第に時事問題へと移り、大激論に。1時間にわたって腹を割り持論をぶつけ合う両者。「互いに言い合える関係の方がいいんだ」と言う馳氏にヒヤヒヤしながら見守っていた周囲も納得し、対談は終了した。「角間の里」を後にしようとする馳氏は、玄関に置かれた記帳簿に気づくとそこに一句。

「白民家や つい誘われて 大放談」



林勇二郎（はやし ゆうじろう）

昭和17年、金沢市生まれ。東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。昭和45年に金沢大学工学部講師となり、助教授、教授を経て平成9年に工学部長。平成11年から学長。平成17年10月から日本学術会議会員。専門は熱工学。

# 子どももの笑顔と 歓声広がる角間の里

平成17年4月に開館した金沢大学創立五十周年記念館「角間の里」。大学と地域の交流拠点であると同時に、年間を通して子どもたちの体験学習の場にもなっている。夏と冬の角間の里を振り返った。

## 「金沢学子ども体験塾」

夏真っ盛り。透き通った青空が広がった8月下旬のある日。深緑に囲まれた角間の里に、子どもたちの笑い声が広がった。

「金沢学子ども体験塾」は、金沢大学が平成14年から実施する伝統文化体験学習プログラム「金沢学」の子ども版。石川・金沢の伝統文化に触れ、体験することで、ふるさとの魅力を再発見する体験学習だ。「和菓子作り・お茶」「三味線」「能」「箏」



「尺八」「生け花」

「剣道・杖道」の体験プログラムの中

から希望のコースに分かれ、一般応募のあった親子275人が充実した2日間を過ごした。

当日、土間では職人から手ほどきを受けながら、「和菓子作り」に挑戦する子どもたちでいっぱい。小学生が中心で、粘土遊びのような感覚を楽しみながら、季節の生菓子づくりに取り組んだ。みんな同じ和菓子を作っているのに、並べてみると大きさや形が少しずつ違ったのは、子どもたちの個性が和菓子に現れたからだろう。

和菓子が出来上がったら、次はお茶へ。茶室では慣れない正座できちんと座り、緊張感漂う雰囲気なかで作法を学んだ。お茶請けに並んだ自作の和菓子を口いっぱいにはおぼると、子どもたちの表情にも笑顔が戻った。

また別の部屋からは、琴の音色が響き、2階では三味線の音色と能の謡いの声……。それぞれが希望する伝統文化に触れ、参加した親子も充実した面持ちだった。



## 「白峰雪だるままつり in 角間の里」

1月下旬、雪化粧をした「角間の里」の周辺に、さまざまな形の雪だるまが姿を見せた。

雪だるままつりと聞けば、北陸の人は「白峰雪だるままつり」を思い浮かべるだろう。「白峰雪だるままつり in 角間の里」は、その金沢版イベントだ。旧白峰村（現白山市）の由緒ある古民家を譲り受け、



「角間の里」として

移築・再生したことが縁で、金沢大学と白山市が協力して開催することになったのだ。

ここでも子どもたちが主役。メインイベントの雪だるま作りには、集まった家族連れら270人が、思い思いの雪だるまを作った。今年の干支をかたどった「犬だるま」、大小の雪だるまを組み合わせた「雪だるま小学校」、魚釣りをする雪だるま

……。昨夏の思い出なのだろうか、カブトムシとクワガタムシをかたどった雪だるまも出現し、子どもたちの豊かな創造力に驚かされた。

夜には雪だるまがろうそくでライトアップされ、幻想的な雰囲気に多くの人が魅了された。雪だるま作りをはじめ、竹スキー作り、かんじぎトレーニングなどさまざまな体験プログラムを実施した雪だるままつりには、見学者を含め親子連れら延べ8100人が訪れた。昨冬は例年にない大雪に悩まされたが、この時ばかりは積雪に感謝した。





特集

### 3 対談「地域にとって金沢大学とは」

文部科学副大臣 馳 浩 × 金沢大学長 林 勇二郎

Topics

### 6 子どもの笑顔と歓声広がる角間の里

自然・文化

### 8 昔話や数え歌、子どもに話したことはありますか？ 失われつつある口承文芸 地元に残る話を保存し後世へ



自然・文化

### 10 地域の専門家がプロジェクトを後押し 里山に知恵を呼び込む民間人 民学連携で新学問の体系化も



地域課題

### 12 地域貢献の中核事業を追う 大学と地域の結びつきを強める 地域活性化プロジェクト

産学官連携

### 14 北陸ライフケアクラスター研究会とは？ 産学官スクラムで強力ブランドを創出

国際貢献

### 16 イタリア現地レポート① 大学が手がける国際貢献 教会壁画修復の現場を歩く

国際貢献

### 18 イタリア現地レポート② フィレンツェ大学の社会貢献



編集委員紹介

昔話や数え歌、子どもに話したことはありませんか？

# 失われつつある口承文芸 地元に残る話を保存し後世へ

「口承文芸」という言葉を耳にしたことはあるだろうか。子どものころ、親から語り聞かされた昔話や数え歌であり、「桃太郎」や「浦島太郎」がそれにあたる。今、その口承文芸が失われつつある。地域文化の伝承や人々の交流に重要な役割を果たしてきた口承文芸「消失の危機」を救うために調査、研究を進める大学と「伝承する地域」の取り組みを取材した。

学生編集委員 岩本未波

## 語り部の声を 映像と音声で記録

平成17年6月、石川県が進める研究教育助成プログラム「地域課題研究ゼミナール」の助成対象に、文学部言語学研究室の調査研究活動が選定された。地域と大学が連携し、地域が抱える課題を調査・研究することで解決に導く活動として認められたのだ。

「石川県の口承文芸の記録と保存のための調査研究」。その活動は、県内各地に残る口承文芸の伝承者の語りを映像・音声に収録することから始まる。収録された音声は文字化され、注釈をつけた資料を作成。これを言語学の基礎資料とする。これらは伝承文化の記録としても地域に公開し、総合学習な

どの資料として活用してもらおう。これまで大学が進めてきた調査・研究だけでなく、保存・公開という視点も活動の重要な目的だ。では、なぜ口承文芸の調査・研究と保存が必要なのだろうか。

## 失われつつある方言 伝承者減少が背景に

「口承文芸には、命令や依頼、勧誘の表現など自然談話では表れにくい表現が豊富なんです」と解説するのは、この調査研究を進める文学部の新田哲夫教授だ。言語学や方言学、特にアクセントを中心として20年以上にわたって研究してきた新田教授にとって、口承文芸は貴重な資料となる。「そこで、実際に収録して方言を文字にすると。それを貯めてどのような方言

や語形が使われるのかデータベースを作るのが研究の目的の一つです」。もちろん、新田教授だけでなく全ての研究者にとっても、データベースの意義は大きい。

伝承者の減少によって口承文芸が急速に失われていることも、保存を急ぐ理由になっている。新田教授は、研究を進めるなかで石川県に残る昔話が少なく知った。「50年前の報告書に書かれていることがわからないケースがある」と語るほど、方言が失われていく状況は深刻だ。それだけに、研究に加えて保存という作業が急務なのだ。新田教授が研究のフィールドとしてきた白山市白峰は、「言語の島」と呼ばれるほど近隣の地域とは言葉の面で著しく違いがみられる地域で、言語学的にみて重要な地域だという。例えば「送らうず」(送



さんによもん話を伝承する濱田さん

ろう)や「失なうず」(失われるだろう)などの「うず」は、室町時代に京都を中心に盛んに用いられていた語法だが、近世になって姿を消した。しかし白峰にはそれが方言として残っているのだ。

白峰の言語研究をしていた平成13年ごろ、ある民話の資料に出合い、「口承文芸には今では話されていない言語が残っている」ことに気づいた。平成16年には、白峰方言だけを使った伝統的な語りをする故織田すえさん(平成17年に逝去、享年90歳)にも出会った。新田教授が「感動した」という、子

どもや孫に聞かせるような織田さんの語り。この語りを聞いたとき、「口承文芸の調査・研究と保存をしなければならぬ」と感じたのだという。

## 小学校で実践される 昔話の伝承

昨年10月のある日、珠洲市のみさき小学校の子どもたちは老人介護施設にゆかり、練習した「さんによもん話」をお年寄りの前で発表した。発表会が終わると、会場はお年寄り子どもたちの笑い声





口承文芸の調査研究を進める新田教授

で包まれた。「何より子どもとお年寄りの交流ができるのがうれしいですね」と話すのは、珠洲市引砂地区に伝わる民話「さんによもん話」を子どもたちに伝承する濱田舜英さん。戦前は、日常的にお年寄りが子どもたちに民話を話し、「さんによもん話」も奥能登地域の誰もが知っている話だった。しかし戦後、次第にその光景は失われ、近年ではほとんど語られることはなくなった。「さんによもん話」は引砂地区に実在したと言われるさんによもん(三石衛門)を主人公にした民話。人をバカにした商人を戒める話など、とんちの効いた面白い話だ。新田教授が今年度に調査した4地点の口承文芸の一つで、濱田さんの語りを10話収録した。

全国で民話の伝承が無くなるにつれ、それに伴って失われたものは多い。お年寄り子どもたちは、交流の機会を失った。民話に織り交ぜられた方言や地域の文化・習慣を伝承する機会もなくなった。しかし、ここ引砂地区では、「さんによもん話」の伝承を通して失ったものを取り戻している。5年前、小学校の総合学習でこの民話を説明したことがきっかけとなり、伝承する活動を始めた。「今では子どもたちも方言をしゃべるようになった」と目を細める濱田さん。地域文化や方言が失われていくことは、「時代の流れの中である意味しょうがない」と感じている。だからこそ、新田教授の活動は頼もしく映る。「記録を残してもらおうと思うと安心します。文化を後世に残していただけるのは、子孫を残すような感じですね。どこか寂しげだった濱田さんに、安堵と喜びの表情が広がった。

**大学と伝承者が手を組み活動を継続**

これまで、石川県内の4地点で、口承文芸を調査し、昔話や数え歌

など41話を収録した。収録した音声や文字起こし、報告書を作成した。言語学の調査資料として残すためには、「1分の音声や文字起こしするの100分はかかる」という作業が必要。相当の苦勞が求められるが、その意義は大きい。収録した映像は編集し、DVDとして学校や図書館などの公共機関に配布する。もちろん、調査を行った各地伝承者へも配布し、報告は欠かさない。

しかし、活動はまだ始まったばかり。石川県内には、消失の危機に直面し、調査研究や記録保存を必要とする口承文芸が数多くあるはずだ。「文字としては残るが、言葉や音としては今しか記録できない。大学の頼もしさを知った」と濱田さんは語る。地域文化を学術的に調査研究し保存する大学。地域文化を伝承していく伝承者。両者によって進められるこの活動は今後も続いていく。



引砂地区にはさんによもんの塚がある

■研究成果の一例

|                   |   |
|-------------------|---|
| タイトル              | <b>さんによもん話「三文になる」</b>   |
| 話の概要              | さんによもんは、京都の仏具屋でがいもん(仏壇で鳴らす鐘)を買おうと値段を聞いた。さんによもんの身なりを馬鹿にして、番頭さんは「三文」と安い値段を言ってしまう。喜んださんによもんは本当に三文だけ払って店を出ていこうとした。慌てて番頭は「(三文に)なりません。」と言って止めようとするが、さんによもんは、がいもんを鳴らしながら、「なります、なります」と言って買ってきたそう。その鐘は、珠洲市の浄福寺と琴江院と本住寺に残っている。  |
| 上段：文字化の抜粋<br>下段：訳 | <b>アー サンモンデゴザンスワネチテ サンモンヤテテ ユーモンサカイ</b><br>「ああ 三文でございます」と言って、 三文だと 言うものだから<br><b>ナンジャー タカイナー コンナガア サンモンカー テュータラ</b><br>「なんだ 高いな こんなものが 三文か」と言ったら<br><b>ホーナ アンタサン コンナ イマ サンモンテイツタツテ</b><br>「そんな あなた こんなのは 今 三文と言っても<br><b>ヒヤクモンダイテモ カワレンダケヨー ユーワケヤー</b><br>百文出しても 買えないほどだよ」というわけだ。 |

■調査地区一覧

| 地区     | 語り手   | 調査項目            | 概要   |
|--------|-------|-----------------|--|
| 白山市白峰  | 織田 すえ | 昔話10話、<br>数え歌3曲 | 白峰の民話を方言だけで語る最後の語り手。平成17年7月に逝去(享年90歳)。「鼠の穂がち」など。 |
| 加賀市地方町 | 河崎 敏夫 | 伝説5話            | 加賀市大聖寺の伝説と民話。「ボンボして」「赤べを抜く」など。                   |
| 鳳珠郡能登町 | 中瀬 精一 | 昔話、<br>伝説3話     | 民話の語り手グループ「とんとむかしの会」のメンバー。「柳田の鷲塚」「天狗になったあんち」など。  |
|        | 谷坊貴美子 | 昔話、<br>伝説10話    |  |
| 珠洲市三崎町 | 濱田 舜英 | 昔話10話           | 実在したと言われる「さんによもん」の話。「三文になる」「天狗の隠れ蓑」など。           |

■さんによもん話「三文になる」の特徴

| 語法              | 訳        | 説明   |
|-----------------|----------|--|
| <b>〜チテ、〜テテ</b>  | と言って     | 引用形式、ト・ユーテの略。  |
| <b>コンナガア</b>    | こんなものが   | がは「〜モノ」の意味。「が」は〜アとなり短く付く。                                  |
| <b>コンナナ</b>     | こんなのは    | こんなナの〜ナは「〜のは」の意味。  |
| <b>ダイテモ</b>     | 出しても     | 「出す、刺す、落とす」などサ行イ音便になる。                                     |
| <b>カワレンダケヨー</b> | 買えないほどだよ | 〜レンは状況的不可能を表す。〜ダケは「ほど」の意味で古い用法。限定を表す標準語の「だけ」は江戸後期以後の新しい用法。 |

地域の専門家がプロジェクトを後押し

# 里山に知恵を呼び込む民間人 民学連携で新学問の体系化も

角間の里山自然学校に平成17年12月、「里山駐村研究員制度」という新しい活動が加わった。里山保全や地域の活性化などに取り組んでいる人を「里山駐村研究員」「里山客員研究員・客員調査員」に委嘱。大学の里山研究に、長年培った経験と知恵を生かしてもらおうのが狙い。取材を進めるうち、いまだ確立されていない「里山学」という学問を興し、金沢大学がその拠点校となるという大きな「夢」も見えてきた。

学生編集委員 紅林毅郎



昨年12月18日に行われた委嘱式後の会議では、制度の趣旨などが説明された

## 民学連携の新しい試み 里山駐村研究員制度

平成11年にスタートした角間の里山自然学校。角間キャンパスに広がる広大な里山ゾーンを開放し、市民らとともに体験・保全活動や研究・調査活動などの取り組みを続けてきた。一般の人でも気軽に登録できるサポーター制度「里山メイト」は400人を超え、昨年度からは、「金沢大学里山プロジェクト」として研究・教育・社会貢献活動を展開する全学プロジェクトに位置づけられた。

「研究員と連携して、里山の調査研究を地域に広げていきたい」と語るのは、大学と地域の橋渡しの役割を果たす地域連携コーディネーターの川島平一さん。研究員制

## 大学と地域をつなぐ研究員 地域課題解決の糸口探る

「研究員は地域の課題を肌で感じ、解決のためのアイデアを持つ」「地域のリーダー」だ。彼らのアイデアを有効に活用するため、川島さんは「情報収集」「情報発信」「勉強会」の3つを活動展開のキーワードに挙げる。地域の要望や提案を集め、大学の研究活動に生かすための情報収集。そして、大学が蓄積してきた研究成果を地域に生かすための情報発信。さらに、里山を軸とした「民学連携」の理念や方向性について理解を深め、地



研究員制度に期待を寄せる川島さん



角間キャンパスの里山ゾーン。ここでの研究に地域の知恵が生かされる

域振興、里山研究の活性化を目指す勉強会。まずは、これらの活動を地道に展開し、大学と地域の連携体制の基盤をつくる。

基盤づくりの次は、「共同研究・調査」で大学が地域と連携し、地域の活性化を目指す。共同研究から、里山の資源を利用した新しい産業を創出することも、目標の一つになる。「産業創出ビジネスモデルの提示」をすることで、産業振興や過疎問題などの地域課題に、解決の道筋をつけていきたい考えだ。

## 様々な事象を体系化し 「里山学」の教育研究拠点に

さらに大きな目標に、「里山学」の確立がある。

里山は、石川県の総面積の約7割、日本全体でも約4割を占める。人間の生活・生産活動の場であり、生活文化が育まれてきた地域であると言える。同時に、多様な生物が生息している自然豊かな地域でもある。

近年は生活・生産様式が変化し、

里山の素地となる森林や草地の経済的利用価値が低下してきた。さらに、農林業の採算性の低下、林業生産活動の停滞などから森林や農地が放置されるケースが増加している。都市近郊では、残された森林が開発の対象となる場合が多く見られ、里山の存続が危惧されている。

動植物、環境、歴史文化、地域経済など様々な分野に影響を与えてきた里山。各分野の学問は発展してきたが、それらを総合的にとらえる「里山学」という学問分野はまだない。川島さんはそれを確立していきたいと言うのだ。

里山プロジェクトでは、里山を生かす様々な工夫や経験、保全管理のための先進事例を収集し、「里山学」として体系化するための検討をすでに始めている。川島さんは、「将来的には、金沢大学を里山学の教育研究拠点にしたい。そのための手がかりとしても駐村研究員制度を機能させていきたい」と意気込む。

研究員制度がスタートし、民間から生まれた知恵を生かす体制が整い始めているが、里山学を体系化する活動はまだ始まったばかり。この分野の学問を確立するには、里山を軸とした大学と地域の協力と、あらゆる分野が一緒になって研究を進める「学際」が必要だ。里山を現代に生かすためには「民学連携」をしっかりと固めることも重要だろう。駐村研究員制度は、その足がかりとなるのだ。

## 里山駐村研究員はこんな人

### 能登手仕事屋店主

#### 星野正光さん

「旅人に本当の能登に出合っほしい」という思いで開いた手仕事屋は、輪島市門前町の総持寺通りにある。うまい豆腐とそばを食べられると評判の店だ。

子どものころ、木こりだった祖父に連れられて里山の自然の大きさを体感した。その体験が「里山は生活の知恵の宝庫」と言い切る星野さんの原点だ。里山は人間との密接なつながりのなかで存在し、そこに先人の知恵が伝承されてきた。しかし、その知恵が失われていく危機にある。昔、子どもは祖父母から知恵を学んだが、核家族化が進み伝承の場も少なくなつた。里山を伝えたい。だからこそ、お年寄りの知恵を子どもたちに伝承するための活動を立ち上げたいと考える。

知識の保存だけではない。「お年寄りが里山伝承に参加することで、高齢者の社会進出にもなります」。里山を守ることが、現在の社会問題の解決にもつながると考えている。



### 農家レストラン経営

#### 室谷加代子さん

畑に囲まれた静かな場所に「農家レストラン」「むろたに」(志賀町)はある。「農家レストラン」の名の通り、食材となる野菜は自家製か地元産。毎週第1、第3土曜日に食談義で客をもてなしている。

駐村研究員に委嘱され、「金沢大学のために協力できるのはとてもうれしいことです」と笑顔で語る。研究員という枠だけにとらわれず、「地域の活動に証書を発行し、大学に認めてもらえば、自信と信頼につながり、活動が発展すると思います」「料理の成分を研究し、公表することで食の発展に貢献することができそうです」などと、大学の社会貢献に関するアイデアも次々と浮かんでいる。

将来はグリーンツーリズムを基本理念とした学校の設立を目指す。自身が丹精した野菜と大学の学問がどう結びつくのか、「これからの展開が楽しみで仕方がない」といった様子だった。



地域貢献の中核事業を追う

# 大学と地域の結びつきを強める 地域活性化プロジェクト

北陸地区には洗練された伝統文化や習慣が息づく。本誌第3号では、この特色ある地域性に着目し、地域文化や経済の活性化に取り組む「地域活性化プロジェクト」がスタートしたことを取り上げた。「地域経済塾」「観光学・まちづくり」「市民大学院」「金沢学」の4事業について、今年度の成果を報告する。 学生編集委員 牧内幸子

## 「地域経済塾」 念願の奥能登教室を開講

経済学部地域経済情報センターが実施する「地域経済塾」。これまでは金沢を中心に講座を開いてきたが、今年度は奥能登にまで範囲を広げた。能登町で開講した「地

域経済塾 奥能登教室」では、奥能登の自然、文化の多様性、祭りに代表される独特なコミュニティなどを生かした経済発展の方向性を探った。



北陸経済の特質を学んだ「北陸地域経済学講座」

また、この奥能登教室を地元の興能信用金庫と共催したことも、大きな成果の一つと言えるだろう。今年度、同センターが実施した「北陸地域経済学講座」や「金沢ビジネスアカデミー」、「スーパードクターン養成講座」は、全て地元企業やNPOなどと共催しており、大学と民間企業が連携するための事業モデルを提示できた点で大きな意味を持つのである。

## 「観光学・まちづくり」 カリキュラム組み込み視野に

観光・まちづくり分野における

大学と地域との連携を深め、地域の活性化を目指す「観光学・まちづくり」事業。この事業で必要とされるのは、大学と地域の人的ネットワークだ。初年度は、他大学や自治体、NPO団体などと研究会や連絡会を重ね、事業の基盤となるネットワークの構築と情報収



地域住民から聞き取り調査をする学生

集を進めた。

学生の参画も欠かせない。若者の視点を地域の活性化に生かすことや、地域づくりを担う人材育成も事業の目的の一つとなっているからだ。地域文化の調査やインタビューシップでは、学生が地域に飛び込み、住民らと共に調査や地域活動に汗を流した。地域からは、学生の柔軟な考えや行動力が評価される一方で、事前の準備不足や学生の動機づけが曖昧であったことが指摘され、課題も残した。

この取り組みは、平成20年度に設置予定の地域創造学類まちづくりコースのカリキュラムに組み込まれる予定である。

## 「金沢学」 着々と進む体系化

ふるさとの伝統文化を学ぶ文化体験学習プログラム「金沢学」。4



金沢学秋コース。染色の講義を聞き入る留学生たち

年目の今年度は開催回数を増やし、初級と中級の2種類のコースを設置した。主に初学者が対象だったこれまでのプログラムは「初級コース」とし、その修了生やより深く学びたい人向けに「中級コース」を新設。今後は「上級コース」の設置や正規授業での単位化を見据え、体系的に学べるプログラムとして充実させていく計画だ。

また、大学と自治体が連携し、「金沢学」の教育内容の検討や調査研究を行うための「金沢学教育研究会」が組織された。委員には、金沢大学をはじめ金沢美術工芸大学、石川県や金沢市の教育委員会のメンバーが名を連ね、地域の要望に

金沢学

石川・金沢の自然や歴史、文化を学ぶ文化体験学習プログラム。

夏コース

加賀友禅型染め、金箔貼り体験、着物文化講義、兼六園・金沢城公園散策、金沢21世紀美術館鑑賞。8カ国の留学生、日本人学生ら50人が受講。

秋コース

「金沢の秋を染める」をテーマに本格的な染色の講義と実習。8カ国の留学生、日本人学生ら22人が受講。「いしかわ教育ウィーク」共催。

冬コース

餅つき、加賀料理、和太鼓の講義と実習。11カ国の留学生、日本人学生、市民ら40人が受講。

特別コース

「能の世界に見る女の一生」と題した能楽の講義。講師は、能楽師・数敏彦氏。能舞台を歩く、能面や能楽器に触れるなどの体験。12カ国5大学の留学生と市民ら33人が受講。

金沢子ども体験塾

子どもたちが石川・金沢の伝統文化に触れる文化体験学習。172人の子どもたちが和菓子づくり、茶道、生け花、能楽、箏、三味線、尺八、剣道、杖道の各コースを体験。

金沢学教育研究会

教育委員会やその他教育機関と連携し、「金沢学」の教育内容の検討、教材開発のための調査研究を行う。今年度は4回実施。

市民大学院

1年制の市民向け大学院。北陸地域の文化に関する研究テーマを持った市民の研究を支援する。

フィールド文化学専攻

「宗教文化調査ゼミ」を実施。北陸の宗教や民俗に関して、研究を行ってきた人や興味がある人を対象に、研究支援と論文指導を行う。7人が受講。全30回。

テキスト文化学専攻

「日本文学研究ゼミ」を実施。「金沢ゆかりの文学」を研究対象とした。前期は今様能狂言の台本を翻訳。後期は各自が研究課題を設定し、発表や討議を行った。10人が受講。全30回。

国際交流史学専攻

「環日本海交流史論ゼミ」を開講。環日本海交流がどのようなものであるべきかを多様な角度から検討し、論文にまとめることを目的とした。3人が受講。全30回。

基礎講座

ゼミで行う研究を理解するため、基礎となる広い知識を得ることを目的とする。「北陸の宗教と民俗」「金沢ゆかりの文学」「環日本海の国際交流」を開講。各講座10回。

特別講座

「近世金沢の総合的研究—城と城下町」を開講。藩主と武士・町人を多様な角度から眺めることによって受講生に近世金沢の総合的なイメージを描いてもらうことを目的とする。全10回。

平成17年度  
活動実績一覧

分類

事業名  
事業の概要

地域経済塾

市民・企業人を対象に、大学教員や専門家によるマネジメント講座など、地域のニーズに応えた各種講座を実施。

北陸地域経済学講座

金沢・北陸の地域経済の特質を歴史や文化的背景を踏まえて理解する講座。全8講義と鼎談。20人が受講。(株)パステルラボと共催。

奥能登教室

奥能登の地域資源を再発見し、地域活性化や経済発展を探る「奥能登流通コミュニティビジネス講座」を実施。全3回。23人が受講。奥能信用金庫と共催。

金沢ビジネスアカデミー

企業経営幹部を主な対象に、総合的なマネジメント力の向上を目指す講座。最先端の経営学・経済学を生かした実践的教育を実施。17年度18回。29人が受講。(株)北陸電力と共催。

スーパーインターン養成講座

インターンシップと事前講座を実施。9日間全14講座と1~2カ月間のインターン。学生の職業意識や実務能力を醸成した。9人が受講。NPO法人起業ネットかなざわと共催。

観光学・まちづくり

観光やまちづくり分野における大学と地域社会との連携を深め、地域活性化を目指す事業。

まちづくりインターンシップ

自治体やNPO法人など地域づくりに取り組む団体への長期インターンシップ。今年度は、1自治体とまちづくりの4団体に10人の学生を派遣。

まちづくり連携研究会

大学と地域との連携を深める方法を模索する研究会。まちづくりに先進的に取り組む高崎経済大学、早稲田大学、岐阜大学などから講師を招き研究会を開催。

まちづくり連絡会

石川県内のまちづくりにかかわる自治体職員やNPO法人などと連携し、まちづくりで直面する課題や解決法を検討する連絡懇談会。

地域文化資源掘り起こし  
基礎調査

石川県内各地の伝統文化や地域社会の動態を調査し、活用プログラムを開発する。今年度は、延べ43人の学生が輪島市、白山市、加賀市で調査を実施。



金沢学冬コース。和太鼓に挑戦した

沿った学習プログラムの開発と、学校教育や生涯学習の教材としての活用方法を探る。自治体との連携も強まったことで、「金沢学」の体系化は着実に進んでいる。

初の市民研究支援も  
「市民大学院」

北陸の文化や歴史について、調査、研究を行う市民を金沢大学の教員が指導する「市民大学院」。一般的な市民向けの公開講座とは違い、市民が主体的に行う研究活動を支援し、1年間で論文にまとめる「市民向け研究支援」の取り組みは、全国でも初めてという。今年度は「テキスト文化学」など3専攻を設置。そこに「宗教文化調査」など3ゼミを開講した。講義を受講するだけでなく自らの興味に基づいて研究を進め、それをまとめた다고考える市民がい



市民大学院の論文報告会。受講生が1年間の研究成果を発表した

ることは知られていたが、そのニーズがどれだけあるのかは未知だった。しかし、蓋を開ければ30人の定員に対し21人が受講。20歳代から70歳代まで幅広い年齢層の受

各事業を有機的に結び  
総合的な地域貢献に

講生が集まった。受講生が年間を通して調査研究を続け、結果をまとめた「市民大学院論文集」は、約300ページにも及ぶ。18年度は、「日本文学研究」など最大6ゼミを開講する予定だ。

「地域活性化プロジェクト」の特徴は、総合大学の特色を生かして様々な角度から「石川の文化・習慣」にアプローチし、地域の活性化に結びつけようとする点だ。個性ある4事業が各分野で地域と連携することはもちろん、それぞれの個性を有機的に結びつけ、一つのプロジェクトとして総合的に地域に貢献しようとしているのだ。今年度は、各事業が独自性をもって活動し、その基盤を固めた。次は、総合的な取り組みへと展開していくことに期待が高まる。5年計画のプロジェクトは、まだ1年目を終えたばかりなのだ。

北陸ライフケアクラスター研究会とは？

# 産学官スクラムで 強力ブランドを創出



北陸ライフケアクラスター研究会から生まれた統一ブランド「HLCC」第1弾のHLCC化粧品シリーズ。ヨモギや加賀野菜のエキスが入った化粧品で、その機能性が確認されている。「HLCC」は、「Healthy (健康)」「Life (暮らし)」「Country (地域)」「Confidence (信頼)」の頭文字をとっており、HLC認証を取得した製品が「HLCC」の商標を使用できる

繊維・食品・製薬など、北陸で強い産業基盤を持つライフケア分野の新製品開発を目指すため、平成14年9月、「北陸ライフケアクラスター(HLCC)研究会」が設立された。産学官の有志が参加し、会長には金沢大学薬学部の大田富久教授が就任。消費者が安全性や機能性を確かめにくい健康食品などを一元的に評価しながら、信頼を勝ち得るためのブランド「HLCC」を立ち上げて高品質の製品を世に送り出している。

学生編集委員 大橋佳祐

現在ではアメリカ以外でも、イギリスやフィンランド、中国など多くの国で政策的に産業クラスターの形成が進められ、ベンチャー企業の増加や企業間の競争力強化に貢献している。クラスターの内部には、「物」「人」「情報」などが集まっているため、新たな技術やアイデアをもとに競争力のある製品を市場に送り出すことが期待さ

クラスターとは本来「ぶどうの房」を意味するが、転じて「群」や「集団」、「集積」を指すようになった。さらに現在では「ある分野の関連企業や大学などの機関が地理的に集中し、競争しつつ協力している状態」にまで、その呼び方が用いられている。映画を中心とした娯楽産業で知られるハリウッドや、精密機械産業で有名なシリコンバレーなどは、世界を代表するクラスターだ。

健康食品や化粧品などのライフケア製品は、直接人体に影響を与えるものでありながら、その機能や安全性については曖昧なものが多い。同研究会は、ライフケア製品の安全性、機能性の評価基準や分析方法を確立し、そこで認められた競争力のある製品を市場に送

北陸ライフケアクラスター研究会は、産業クラスター計画によって推進される「北陸ものづくり創生プロジェクト」のサブクラスターとして発足。平成18年2月現在で、企業会員36社、特別会員55組織が加盟している。

**NPO法人化を目指す  
HLCC研究会**

国内では、平成13年度に経済産業省が国際競争における国内産業の競争力強化、地域経済の自立化を目指し、「産業クラスター計画」を打ち出している。

**大学や企業が集い  
クラスターを形成**



**HLC CERTIFIED**  
産学連携による安心・安全のマーク

北陸ライフケアクラスター(HLC)研究会において、製品の安全性、機能性について検討し、科学的な裏づけにより、それを確認したことを示す研究会独自の統一マーク



研究会の事務局を務める彦田社長。研究会の成果に「手応えを感じている」という

「大企業の少ない北陸だからこそ、企業は大学に技術や知識を求めている。高い技術と地方大学としての特色を併せ持つ金沢大学には、是非とも産学官連携の橋渡しになってほしい」と太田教授が語るように、大学の研究に対する産業界からのニーズは、これまで以上に高まっている。研究と教育が大学の主な役割とされているが、これからの時代は社会のニーズに基づいた研究も重要視されてくる。これが太田教授の語る「大学の社会貢献」だ。

学問としての研究を重んじる学者の価値観と、実務を通して利潤を求める企業研究者の価値観にはズレがあり、時には衝突することもあるという。そんななか、人との交流を重んじ、企業側の人間とも盛んにコミュニケーションを図ってきた太田教授が研究会の会長ポストに就いたのは、適材適所といえるだろう。

「これまででは任意のボランティア団体としての要素が強かった研究会も、資金を得ることでさらなる飛躍が期待されている。」

薬学部天然物化学研究室に籍を置く太田教授は、これまでキノコを中心にハーブ、海洋生物などの天然素材から、健康や医薬品に生かすための成分抽出の研究を進めてきた。ブラジル原産のキノコ「アガリクス」に肺がん予防の効果があることを確認し、日本の研究として初めてアメリカの国立がん研究所から研究費を受けたという経歴も持つ。高校時代、「人に近い分野の科学を」という思いから、薬学の道へ進んだ太田教授。研究の成果は、学会と市場の垣根を越えて発揮されている。

## 独自のヒット商品を次々と送り出す

「ター研究会の中核企業で事務局も兼ねる「株式会社ビーロード」(彦田庸三社長)は、加賀野菜のヨモギと金時草を利用した化粧品「H L C C化粧品シリーズ」を商品化。企画の段階から参画した民間企業が販路開拓を担い、全国のドラッグストアや有名雑貨店で購入することができるようになった。このほか富山県の食品研究会が開発し、臨床試験によって便秘などに効果が高いことが証明された「おから健康パン」(豊フーズ産業)、新しい体熱可塑性素材を用いた「かみかみサプリ」(明治薬品)、防透性、伸縮性、耐熱性、抗菌性など、今までにない組み合わせ効果を持つ機能性白衣(岸商事)なども商品化に至っている。これら全てが、同研究会によって安全性や機能性

## 社会ニーズに応じた研究が求められる

などの科学的評価の認証を受け、商品化されたものだ。中でも人気が高いのは、石川県の老舗酒造メーカーが生産している日本酒エキスローション「アミノリセ」(福光屋)。通販カタログ誌として有名な「通販生活2005年冬号」で、「04年度の読者が選んだ保湿系化粧品の人気ランキンググベストテン」で2位にランクインした実績を持つ。「北陸の強みを生かした商品開発はひとまず軌道に乗った。今後はマーケティングにも注力していきたい」と彦田社長も意欲的だ。



取り組みについての熱意を語る研究会長の太田教授



**北陸ライフケアクラスター (HLC) 研究会**

〒923-1211 石川郡能美市旭台2-5-3  
いしかわフロンティアラボ内  
(株)ビーロード内  
TEL.0761-51-7487 FAX.0761-51-7497  
URL. <http://www.h-lifecare.net>  
E-mail. [info@po.h-lifecare.net](mailto:info@po.h-lifecare.net)

# 大学が手がける国際貢献 教会壁画修復の現場を歩く

伊フィレンツェ市のサンタ・クローチエ教会には、ガリレオ・ガリレイやミケランジェロ、マキアヴェッリら世界史に燦然と名を残す偉人の墓がある。本誌第2号では、日伊共同プロジェクトとして金沢大学と国立フィレンツェ修復研究所、同教会が、大礼拝堂にある壁画「聖十字架物語」の修復作業に取り組みことを紹介した。そして今年1月、大学が国際貢献の一つとして位置づける同プロジェクトの進ちよくや今後の展望を報告するため、大学側の責任者として現地で指揮を執る宮下孝晴教育学部教授（イタリア美術史）を訪ねた。

社会貢献室 宇野文夫、上口大介

壁画「聖十字架物語」の修復現場は足場に覆われていた。鉄パイプで組まれた足場は高さ26メートル、ざっと9階建てのビル並みの高さである。天井から吊られた十字架像、窓にはめられたステンドグラスなどの貴重な美術品や文化財はそのままにして足場の建設が進んだのだから、慎重さを極めた



修復プロジェクトを指揮する宮下孝晴教授と壁画修復部長のダンティさん

「さあ、歩いて階段を上りましょう」。現場に同行してくれた修復研究所壁画部長のクリスティーナ・ダンティさんがそう言うので階段を上り始めた。エレベーターによる

**予想以上の激しい傷み  
目立つ亀裂やひび割れ**

「さあ、歩いて階段を上りましょう」。現場に同行してくれた修復研究所壁画部長のクリスティーナ・ダンティさんがそう言うので階段を上り始めた。エレベーターによる

作業だったことは想像に難くない。平面状に組んだ足場ではなく、立体に組んであり、打ち合わせ用のオフィス空間や照明設備や電気配線、上下水道もある。下水施設は洗浄のため薬品を含んだ水を貯水場に保存するためだ。それに人と機材を運搬するエレベーターもある。

振動は壁画の亀裂や剥落の原因にもなりかねないので、測定機材などを運ぶ以外は極力使わないようにしているのだという。

足場の最上階に上がると大礼拝堂の天井に手が届くほどの距離に達する。「壁画に触れないように気をつけて」とダンティさんは念を押す。宮下教授は「足場ができる前までは下から双眼鏡で眺めていたのですが、足場が上がって直に見ると予想以上に傷みが激しく愕然としましたよ」と話す。ステンドグラス窓の一部が壊れ、そこから侵入した雨水とハトの糞で傷んだところや、亀裂やひび割れが目立つ。また、専門家の目では、70年ほど前の修復で廉価な顔料が



サンタ・クローチエ教会の正面。手前は「神曲」で知られるダンテの像

**慎重極める修復計画  
看板に光るアカンサス**

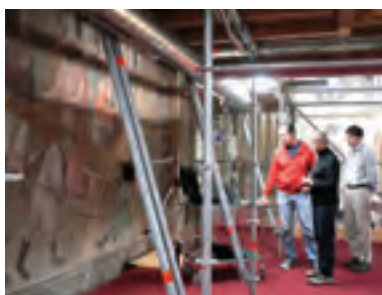
現在、修復研究所では、プロパングスのファンヒーターを足場の床面に約2分間均等に照射し、間接的に壁画面の温度を上昇させた後に壁面から放射される遠赤外線量の違いを赤外線カメラで画像化するというサーマルビジョン（サ

ーモグラフィ）調査を行っている。これだとまるでレントゲン撮影のように、壁画の奥深いところまでの状態を観察することができる。一方で、4人の修復士たちが「目による画面の状況確認」も行いながら、剥落や剥離がひどいところには応急処置として、傷口にバンドエイドを貼るように、小さく切った紙を慎重に貼って進行を防いでいる。専門家の目と検査器械による診断は人間ドックならぬ、「壁画ドック」とでも例えようか。3月末からクリーニング作業に入り、





修復現場の足場に設けられたスタッフルームで打ち合わせをする調査や修復のスタッフ



蛍光エックス線分析によってサンプリングすることなく顔料を調査できる



国立フィレンツェ修復研究所には修復を待っていた様々な絵画や像などが運ばれてくる。「文化財の病院」と言える



足場の高さは26メートル、9階建てのビルの高さくらいになる

### 世界屈指のプロ集団 フィレンツェ修復研究所

国立フィレンツェ修復研究所を訪れた。ダンティさんが研究所の成り立ちなどを説明してくれた。もともとこの研究所は16世紀に「美術のパトロン」といわれたメディチ家が珍しい鉱石（貴石）の収集と細工を出発点にしているが、後に彫刻や建築の修復とその幅を

広げ、並行して診断結果を総合判断して壁画保存の計画を策定、実施していくことになる。プロジェクトは5年計画。スタートから1年を経て、調査から修復へと本格化する。サンタ・クロチエ教会財産管理部の部長、カルラ・ボナンニさんは「この壁画はスケールが大きすぎて、修復のチャンスがなかなか回ってこなかったのですが、ようやく緒につき感謝しています」と金沢大学の協力を高く評価している。足場の工事看板にはアカンサスの葉を圖案化した金沢大学の校章が真ん中に記されている。

### 修復通じた科学分析で 革命画法の秘密に迫る

宮下教授は今回の壁画修復プロジェクトの意義を研究者の立場からこう語る。13世紀半ばのイタリアで、顔料が年数とともに剥落してしまうというそれまでの壁画技法に革命が起きた。生乾きの漆喰に水だけで溶いた顔料で描いていくフレスコ画法である。この高度な技法が確立されて間もない1380年代にアーニョロ・ガッティが描いた大作が「聖十字架物語」

だ。その弟子であるチェンニーノ・チェンニーニが美術史上最初の口語体による「絵画技法書」を著した。つまり「絵画技法書」を参照しながら、「聖十字架物語」に科学的な調査と分析を加えた研究ができる。宮下教授は「フレスコ画の成り立ち、ひいてはルネサンス美術に果たしたフレスコ画の役割を考察する大きな手がかりになる」と美術史の上での研究意義を強調する。

調査を終えた宮下教授は3月に帰国し、今後は年に数度の割でフィレンツェの現場に足を運び、修復計画の策定と実施にかかわることになる。



亀裂が入った壁画には応急措置として、傷口に小さく切った和紙を貼っている

### サンタ・クロチエ教会壁画修復調査研究プロジェクト

宮下孝晴教授がNHK教育テレビ「人間講座」でルネサンス黎明期のフレスコ壁画を紹介したことがきっかけで、東京の篤志家から壁画修復のための寄付金（2億円）の申し入れがあった。金沢大学は国際貢献活動との位置づけ

で、大学として寄付金を管理。修復作業は国立フィレンツェ修復研究所、そしてサンタ・クロチエ教会の3者による日伊共同プロジェクトとしてスタートした。2005年から5年計画。

# イタリア現地リポート② フィレンツェ大学の社会貢献

11世紀後半、イタリアのポローニャに若者たちが集い、教師と教授契約を結んで学問を始めたのが世界最古の大学といわれる。そんな伝統があるイタリアの大学では、社会貢献活動がどのように受け止められているのか、フィレンツェ大学のミルコス・ボスコビッツ教授にうかがった。通訳は宮下孝晴教授にお願いした。 社会貢献室 宇野文夫、上口大介



大学と地域のかかわりについて説明するミルコス・ボスコビッツ教授

フィレンツェ大学には11学部5万人の学生が学ぶ。校舎はフィレンツェ市内に点在する。学部・学科の看板がなければ街の中の住宅アパートと見誤るほどだ。街に溶け込んでみると表現した方が適切かもしれない。西洋美術史の権威でもあるボスコビッツ教授のオフィスから市井の雑踏が聞こえる。

## 文化遺産を一緒に守る意識の高い市民と学生

教授には「イタリアの大学では社会貢献活動はどうなっているのか」と最初に質問した。すると「大学に社会貢献という言葉はない」

という返事。しかし、よくよく聞いてみると、社会貢献という言葉はないものの、活動内容でそれと取れるものがある。たとえば、フィレンツェは街そのものがユネスコ（国連教育科学文化機関）の世界遺産（1982年認定）になっている。そこで、美術館のカタログ作成に学部・学科の学生を動員したり、また、美術関係の市民シンポジウムに教授や学生が研究成果を発表したりするということがよく当たり前に行われている。「行政を始め文化保護財団や美術友の会、大学がいつしよになって私たちの文化遺産を守ろうという意識がとても強いのです」（ボスコビッツ教授）

## 登録制で間口広い大学街に溶け込み市民と交流

イタリア版生涯教育もある。イタリアでは大学入學は試験制ではなく、登録制だ。もともと間口が広い上に、フィレンツェ市と大学が提携し、社会人学生は無料で夕

方や週末に受講できる。仕事が忙しくて対面授業ができない社会人学生のためにビデオを利用した授業もある。しかし、1単位ごとに教授と学生との口頭試験があり、これが容易ではなく学位が取れる。社会人学生は少ないのだという。「大学（ユニバーシティ）」の語源であるユニベルシタスはポローニャに集まった青年たちの集団を意味する言葉だった。青年たちは法学者の中から先生を選び、教授契約を結んで学問をした。こんな伝統から、こと学問に関しては「なあなあ」では済まさない風風があるのだ。

フィレンツェ大学には6つも附属の美術館や博物館がある。そのうちの自然史博物館と鉱物博物館を見学させてもらった。自然史博物館は理学部が収蔵している地元で発掘された大型ゾウの骨など研究資料を展示している。訪れた日、市内の小生グループが大学の解説員から説明を受けていた。ここで的人气は子どもたちが寝具持ち込みで一晩を博物館で過ごす「お泊り体験」だという。

確かにフィレンツェ大学には社会貢献というある意味で奇をてらった言葉はない。その言葉を使わなくても、大学が街と溶け込み自然体で市民と接しているという感じがした。



一番の人気は「博物館お泊り体験」。子どもたちは大型ゾウの化石を囲んで一晩を過ごす



フィレンツェ大学の附属博物館を見学する子どもたち。同大は収蔵品を6つの附属博物館や美術館で公開している

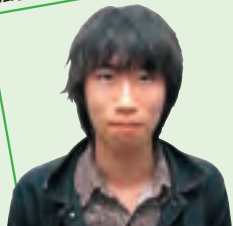


フィレンツェ大学の外観。看板が無ければ住宅アパートと見誤るほど、街に溶け込んでいる

# 編集委員紹介

就職活動などの時期的事情もあり、発行までに四苦八苦した第4号だった。なんとかこぎつけた刊行には思うところもさまざま。取材などの一連の作業を終え、学生たちに今思うことを語ってもらった。

大橋佳祐 (おおはしけいすけ)  
●学生編集長  
●法学部3年



就職活動と並行して取り組んだ会議、取材、そして編集。もう本当に大変でした。でもこの活動の話を面接ですると、相手の反応も結構良かったり……。取材に応じていただいたHLCC研究会の方々、大学職員の方々、編集委員のみんな、定江さん、そして記事を読んで下さった方々、本当にありがとうございます。

牧内幸子 (まきうちさちこ)  
●副編集長  
●法学部3年



多くの方々のおかげで完成できたことに感謝しています。2回目の編集委員でしたが、今回もまた学ぶことが多くありました。人に読んでもらう記事を書くことや、工夫することの大切さをはじめ、日程調整や教えることに対する責任を痛感しています。どうもありがとうございました。

水越直哉 (みずこしなおや)  
●副編集長  
●文学部3年



この企画に参加することがなければ、馳浩代議士などはまずお会いすることはできず、あの立派な姿が頭に焼きつくことはなかったでしょう。ともうれしく、責任感の重い仕事となりましたが、こういった貴重な経験ができたことにとても大きな満足感を得ています。

岩本未波 (いわたみなみ)  
●経済学部2年



初めての取材、原稿書きを体験しました。どちらも難しかったです。けれども「地域とともに」に出合えなかったらできないような貴重な体験をしました。次の取材、記事は今回よりいいものになるよう改善したいです。

紅林毅郎 (くればやしたけろう)  
●文学部1年



石川県は広くて深い、これが活動後の率直な感想です。編集委員として取材活動をしなければ決してかわることのなかった方たちとの出会い、行かなかったであろう土地、すべてが自分自身の糧として私の血となり肉となったと思います。山本さん、最高のフォローをありがとうございました。



## 【社会貢献室】

- 橋本 哲哉 (室長・理事・副学長)
- 上口 大介 (室長補佐)
- 川島 平一 (地域連携コーディネーター)
- 宇野 文夫 (地域連携コーディネーター)
- 稲置 慎也 (地域連携コーディネーター)
- 山本 秀樹 (地域連携コーディネーター)
- 掛野 由香 (初等中等教育支援コーディネーター)
- 鈴木 太郎 (情報企画課長)
- 岩井 克義 (社会貢献係長)
- 中村 浩二 (自然計測応用研究センター教授)
- 服部 英二 (大学教育開放センター教授)
- 木之下英二 (教務課長)
- 中村 晃規 (研究員)
- 笠木 哲也 (研究員)
- 毛利 泰江 (研究員)
- 菊本 舞 (研究員)
- 小柴有理江 (研究員)
- 橋爪 尚子 (調査員)
- 由良 信道 (室顧問・情報部長)

平成18年3月発行

企画・編集・発行  
金沢大学社会貢献室  
協力 シナジー株式会社  
印刷 能登印刷株式会社

平成25年、活動は10年の節目を迎えている。

●編集後記  
●学生による編集は過去2回で、運営のノウハウは少ない。このままがむしろに活動していくのは心許ない。そこで、学生主体で継続できる体制づくりを密かなテーマにした。もちろん、今号の活動で確立できないのはわかっている。しかし、これを持続できればどうなるのか？期待を持って、将来の編集委員を想像してみると……

編集しているのは「地域とともに」。その中身を見ると、プロが編集したのかと見間違えるほどの出来映えだ。もちろん記事の質も高い。これが地域連携推進の立役者というのうなずける。

この質の高さを保証する基礎となっているのが編集ゼミだ。新聞社や出版社などで活躍する先輩たちは既に数十人にのぼる。その先輩たちを講師に迎え、実践的な勉強会を毎週しているのだ。さらに、学内外にこの活動が評価され、数年

前からは、学内の広報誌やパンフレットの編集を請け負うなど活動が広がっている。

編集委員の存在が金沢大を志望した動機という学生編集長を中心に現在30人が活躍する。「地域とともに」は、年4回、各1万部を発行。石川県内の書店などで無料配布している。

……絵空事のようにだが、こういう将来像を夢見て活動するのも良いではないか。

地域連携コーディネーター 山本秀樹

# 金沢大学 社会貢献室

地域のニーズに応える  
「大学の総合窓口」  
◆  
大学の知と地域のニーズを繋ぐ  
「コーディネーター」  
◆  
大学の社会貢献に関する  
「情報発信拠点」

〒920-1192  
金沢市角間町  
(金沢大学大学教育開放センター内)

TEL: 076-264-5290  
FAX: 076-234-4045

E-mail: chiiki@ad.kanazawa-u.ac.jp  
URL: http://cr.lib.kanazawa-u.ac.jp/

# 金沢大学創立五十周年記念館 角間の里




## 自然と調和した、大学と地域の交流拠点

「角間の里」は、金沢大学創立五十周年記念事業の一つとして、卒業生をはじめとした多くの方々からの寄付によって創設されました。地域の住民、本学同窓生、教職員、学生など、だれでも利用できます。


## 280年の歴史を持つ古民家の再生

金沢大学が「創立五十周年記念館」にふさわしい、伝統ある民家を探していたところ、石川県白山ろく旧白峰村の豪農民家山口家と出会いました。この山口家は築280年の歴史と風格を合わせもち、村指定有形文化財として移築保存されていました。山口家を角間キャンパスに「角間の里」として移築することは、金沢大学が目指す「自然との共生」「社会貢献」の推進につながり、今後の発展が期待されます。「角間の里」は「角間の里山自然学校」の活動拠点にもなっています。




**2階ホール**  
▼利用規模  
20~50人

会合・授業・セミナー・展示・ミニコンサート等に  
適した板の間です。




**1階研修室**  
▼利用規模  
20~50人

会合・授業・セミナー等に  
適した板の間です。



**前庭**  
▼利用規模  
50~100人

屋外での授業や活動等に  
適したスペースです。



**多目的ホール**  
▼利用規模  
20~40人

会合・授業・セミナー・創作活動等  
(クラフト、料理、染色)に適した土間です。

◇木造三層建 建築面積約360㎡、  
延床面積約500㎡

◇設備  
・冷房なし、個別暖房  
・光ファイバー、ITコンセント  
・プロジェクト、スクリーン  
・机、パイプイス

### 施設利用のお問合せ

〒920-1192 金沢市角間町  
Tel : 076-264-6698 Fax : 076-264-6699  
E-mail : info@satoyama-ac.com  
http://www.satoyama-ac.com/

【開館時間】9時から17時  
【休館日】毎週日曜日・月曜日  
12月29日から翌年の1月3日まで

